

DNP、研究開発部門に「ChatGPT Enterprise」を導入し業務効率化を加速

Gemini Deep Research

DNPは、2025年2月にOpenAIが提供する企業向け生成AIサービス「ChatGPT Enterprise」を導入しました。^{1 2}これは同社のDX推進戦略の一環であり、研究開発や新規事業開発などの部門で活用することで、業務プロセスの最適化、開発の効率化、そして新たな価値創造を加速させることを目的としています。³

背景と目的

DNPは、「印刷と情報（Printing & Information）」という独自の強みを掛け合わせた「P&Iイノベーション」を事業ビジョンとして掲げています。³DX推進においてもこのビジョンに基づき、新たな価値創出を目指しており、その一環として、企業の強みや戦略を整理し、ステークホルダーに伝わりやすい統合報告書の作成支援サービスなどを提供しています。^{3 4}

マルチモーダルや論理的思考といったChatGPT Enterpriseの先進的なAIモデルを活用することで、より複雑な課題解決や高度な分析が可能となり、顧客や社会への新たな価値提供を加速させると期待されています。³

具体的な活用方法と期待される効果

DNPは、ChatGPT Enterprise導入により、従来の業務と比較して50%以上の業務自動化を目指しています。^{1 5 5}具体的な活用方法としては、各部門で業務特化型のAIエージェントを構築し、複雑で難解な業務に応用することで、速やかな情報処理と論理的な推論による成果の最大化を図るとしています。^{2 3}

研究開発部門では、以下のような活用が想定されています。^{1 3 1 5}

- 新材料の探索
- 品質分析
- 製品開発における特許調査や出願
- 法規制調査
- 研究開発用のシステム開発

事業開発部門では、ChatGPT Enterpriseを活用することで、社会や市場、生活者のニーズの変化を迅速かつ正確に把握し、それに基づいた各種調査や、膨大な数のビジネスアイデアの検討を効率的に行うことが期待されています。⁵

これらの活用により、大幅な作業時間の短縮、より広範な業務の遂行と品質向上、そして各部門の生産性向上と新しい価値の開発・提供などが期待されています。^{3 2}

LLM 導入の動向と課題

ChatGPT の登場以降、LLM は多くの企業で導入が進んでいます。⁶ MM 総研の調査によると、2024 年 3 月時点での生成 AI 導入率は 19% で、2025 年度にかけて全社導入を進める企業が多いとされています。^{7 8}

富士キメラ総研の調査によると、2024 年度の生成 AI 市場は前年度比 3.0 倍の 4,291 億円に達すると見込まれています。⁶ これは、世界中で LLM の開発や LLM をベースとした新規サービス／ソリューションの創出、実用化に向けた取り組みが加速していることを示しています。⁶

LLM 導入における課題としては、以下のような点が挙げられます。

- **高度な人材・ノウハウの不足:**^{7 8 9} LLM を効果的に活用するためには、AI やデジタルに関する高度な知識・技術を持つ人材が必要となります。LLM の導入には、機械学習と自然言語処理の両方に精通した人材や、高性能な GPU クラスターの構築・運用など、高度な技術力が必要とされます。
- **セキュリティやプライバシーの確保:**^{7 8} 企業内の機密情報や個人情報を取り扱う際には、セキュリティやプライバシーの確保が重要となります。LLM の利用においては、入力情報や生成結果の取り扱いに注意し、機密情報の漏洩や不正利用を防ぐ必要があります。
- **ハルシネーションの抑制:**¹⁰ LLM は、事実とは異なる情報を生成してしまう「ハルシネーション」を起こす可能性があり、その抑制が課題となります。ハルシネーションは、LLM が文脈を完全に理解していないことや、学習データに誤情報が含まれていることなどが原因で発生します。
- **コスト効率:**¹⁰ LLM の運用には高性能な計算資源が必要となるため、コスト効率が課題となります。LLM のモデルサイズが大きくなるほど、必要な計算資源も増え、運用コストが高くなります。

これらの課題を解決するため、企業は AI 人材の育成、セキュリティ対策の強化、国産 LLM の活用などを進めています。^{8 6}

他の企業における LLM 導入事例

LLM 導入は様々な業界で進んでおり、各社はそれぞれの課題解決や業務効率化のために LLM を活用しています。

- **ソフトバンク:** 全従業員 2 万人が利用できる安全な ChatGPT Enterprise 環境を整備し、文章作成、翻訳、営業・マーケティング、サービス開発、コールセンター業務など、あらゆる業務への応用を目指しています。⁷ また、「Sarashina」と呼ばれる日本語に特化した LLM を開発し、日本の文化や商習慣に適した、より自然で正確な回答を生成できる AI サービスの提供を目指しています。^{11 12 13}
- **NEC:** Open AI の LLM と自社開発の LLM を組み合わせた社内 LLM を導入し、資料作成時間の 50% 削減、議事録作成時間の短縮などの成果を上げています。⁷ また、ドライブレコーダーの映像から事故状況を自動的に分析する生成 AI を開発するなど、LLM の応用範囲を広げています。¹⁴ さらに、医療分野に特化した LLM を開発し、東北大学病院と共同で治療候補患者の抽出に活用する実証実験を行い、抽出精度の向上を確認しています。^{15 16}
- **PwC:** グローバルで ChatGPT Enterprise を導入し、10 万人の社員が税務申告書類の確

認、ソフトウェア開発、レポート作成などの業務に活用しています。⁷

「ChatGPT Enterprise」の機能と特徴

ChatGPT Enterprise は、OpenAI が提供する企業向けの ChatGPT プランであり、無料版や ChatGPT Plus と比較して、以下のような特徴があります。^{17 18 19 20 19}

- **企業レベルのセキュリティ対策:** SOC 2 準拠など、企業レベルのセキュリティ基準を満たしており、データは送信時と保存時に暗号化されます。²⁰ これにより、企業は安心して機密情報を含むデータを取り扱うことができます。
- **GPT-4 への無制限アクセス:** GPT-4 モデルを無制限に使用することができ、さらに、通常のバージョンよりも迅速な応答時間を提供します。¹⁸ GPT-4 は、高度な言語理解能力と生成能力を備えており、複雑なタスクにも対応できます。無制限にアクセスできるため、業務効率化に大きく貢献します。
- **大規模利用を想定した管理機能:** シングルサインオン (SSO)、アクセス制御、監査ログ、データ暗号化などの機能を備えており、多数のユーザーを効率的に管理できます。²⁰ これにより、大企業でもスムーズに ChatGPT Enterprise を導入し、運用することができます。
- **組織に合わせたカスタマイズが可能:** 共有テンプレート、ワークフローの協力、企業システムとの統合などの機能を提供し、企業が独自の要件に合わせて AI サービスを調整できます。¹⁸ 企業は、自社の業務プロセスやニーズに合わせて ChatGPT Enterprise をカスタマイズすることで、より効果的に活用することができます。
- **高度なデータ分析機能:** データの分析や可視化、コードの実行など、高度なタスクを実行できます。²⁰ これにより、データ分析やレポート作成などの業務を効率化することができます。
- **制限文字数増量:** トークン制限は、ChatGPT Team の 4 倍となる、128,000 トークンです。¹⁸ より多くの情報を一度に処理できるため、複雑な質問や大量のデータの処理に役立ちます。

LLM の倫理的な問題点とリスクへの DNP の対応

LLM の利用には、倫理的な問題点やリスクが伴います。主なものとしては、以下のような点が挙げられます。

- **データプライバシー:** LLM は、大量のデータを学習するため、個人情報や機密情報の取り扱いには注意が必要です。^{21 22 22} LLM に入力するデータや、LLM が生成するデータに個人情報や機密情報が含まれていないかを確認し、適切なセキュリティ対策を講じる必要があります。
- **バイアス:** 学習データに偏りがある場合、LLM の出力結果にもバイアスが生じる可能性があります。^{23 24 23} LLM の学習データの偏りを最小限に抑え、多様なデータで学習させることで、バイアスを軽減することができます。
- **ハルシネーション:** LLM は、事実とは異なる情報を生成してしまう「ハルシネーション」を起こす可能性があります。^{21 25} ハルシネーションは、LLM が生成した情報の正確性を常に確認し、必要に応じて修正することで、その影響を最小限に抑えることができます。
- **著作権侵害:** LLM が生成したコンテンツが、既存の著作物を侵害する可能性があります。

²¹ ²² LLM が生成したコンテンツの著作権について確認し、必要に応じて権利処理を行う必要があります。

- **悪用:** LLM が悪意のある目的で利用される可能性があります。²⁶ ²⁷ LLM の利用を適切に管理し、悪用を防ぐための対策を講じる必要があります。

DNP は、これらの問題点やリスクに対応するため、2024 年 1 月に「DNP グループ AI 倫理方針」を策定しました。²⁸ この方針は、経済産業省と総務省が策定した「AI 事業者ガイドライン」²⁹ を踏まえ、AI の誤用が企業の信用を損ねるリスクを考慮し、社会的責任を果たしつつ信頼される AI 活用を行うための行動指針を明確にしたものです。²⁹

「DNP グループ AI 倫理方針」では、AI の利活用に際して、法令遵守、公正性・公平性の確保、プライバシーの保護、透明性・説明性の追求、人材育成などを重視することを謳っています。³⁰ ²⁸ また、社内ルールを整備し、全社員を対象とした e ラーニングを実施するなど、遵守の徹底を図っています。²⁸ さらに、生成 AI ラボを開設し、AI リテラシー向上と人材育成にも取り組んでいます。¹

DNP の LLM 導入における成功要因と今後の展望

DNP の LLM 導入における成功要因としては、以下のような点が考えられます。

- **経営層のコミットメント:** 経営層が AI 技術の重要性を認識し、導入を積極的に推進しています。³
- **全社的な AI 活用:** 全社員が生成 AI を活用できる環境を整備し、AI リテラシー向上と人材育成に取り組んでいます。¹ ²⁸ 2023 年には、約 3 万人のグループ社員が生成 AI を利用できる高セキュリティ環境を構築しました。¹
- **OpenAI との連携:** OpenAI の継続的な支援を受け、AI エージェントの効果の最大化を図っています。¹ ⁵
- **AI 倫理への配慮:** AI 倫理方針を策定し、倫理的な問題点やリスクへの対応を明確にしています。²⁸
- **共創の場の提供:** 社内外の共創拠点として「生成 AI ラボ・東京」を開設し、AI 活用のユースケース創出を促進しています。⁵

今後の展望としては、以下のような点が挙げられます。

- **50%以上の業務自動化:** ChatGPT Enterprise の活用により、従来の業務と比較して 50%以上の業務自動化を目指しています。⁵ ⁵
- **AI エージェントの進化:** 社内研修やコンテストなどを実施し、AI エージェントの効果の最大化を図っていきます。⁵ ⁵
- **新たな価値創造:** 生成 AI ラボなどを通じて、社外パートナーとの共創を促進し、新たな価値創造を目指します。⁵

DNP は、ChatGPT Enterprise をはじめとする AI 技術を積極的に活用することで、さらなる事業成長と社会への貢献を目指していくと考えられます。

結論

DNP は、ChatGPT Enterprise を導入することで、業務プロセスの効率化、開発のスピードアップ、そして新たな価値創造を加速させようとしています。50%以上の業務自動化という目標を掲げ、AI 技術を積極的に活用していく姿勢は、他の企業にとっても参考になる点が多いと言えるでしょう。倫理的な問題点やリスクへの対応も明確にしておき、AI 技術を責任を持って活用していくという DNP の姿勢が伺えます。

DNP は、ChatGPT Enterprise の導入を皮切りに、AI 技術の活用をさらに加速させていくと考えられます。LLM の進化は目覚ましく、今後ますます多くの企業が LLM を導入し、業務プロセスを変革していくことが予想されます。³¹ DNP の今後の取り組みは、AI 技術の活用による企業の変革を促進する上で、重要な事例となる可能性を秘めています。

引用文献

1. 大日本印刷、「ChatGPT Enterprise」を導入--研究開発や新規事業開発を加速 - ZDNET Japan, 3月6, 2025 にアクセス、<https://japan.zdnet.com/article/35230100/>
2. DNP が研究開発部門などに「ChatGPT Enterprise」導入、50%超の業務自動化を目指す, 3月6, 2025 にアクセス、<https://enterprisezine.jp/news/detail/21567>
3. さらなる DX の推進に向けて OpenAI 社の ChatGPT Enterprise を導入 - PR TIMES, 3月6, 2025 にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000772.000069194.html>
4. 企業のサステナビリティ経営支援サービスで PwC サステナビリティ合同会社と協業 - みんなかぶ, 3月6, 2025 にアクセス、<https://s.minkabu.jp/news/4166154>
5. さらなる DX の推進に向けて OpenAI 社の ChatGPT Enterprise を導入 | ニュース | DNP 大日本印刷, 3月6, 2025 にアクセス、https://www.dnp.co.jp/news/detail/20176405_1587.html
6. 2025 生成 AI/LLM で飛躍する AI 市場総調査』まとまる (2024/12/3 発表 第 24114 号) - 富士キメラ総研, 3月6, 2025 にアクセス、<https://www.fcr.co.jp/pr/24114.htm>
7. 本番迎える生成 AI/LLM 市場、国内ベンダーに期待集まる << プレスリリース | 株式会社MM総研, 3月6, 2025 にアクセス、<https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=618>
8. 生成 AI 導入率は 19%、国産 LLM への期待も高まる。MM総研、生成 AI 利活用動向調査を発表, 3月6, 2025 にアクセス、https://aismiley.co.jp/ai_news/mmresearch-survey2024-llm/
9. LLM (大規模言語モデル) の仕組みと活用事例！企業の LLM 導入に向けた課題も解説, 3月6, 2025 にアクセス、https://www.nextech-week.jp/hub/ja-jp/blog/article_07.html
10. 生成 AI 活用を阻む 3 つの課題 汎用型 LLM と共存する「自社特化型 LLM」構築のポイントとは, 3月6, 2025 にアクセス、<https://enterprisezine.jp/article/detail/20906>
11. ソフトバンクがなぜ日本語特化の国産 LLM を開発するのか、その勝機と将来像は？, 3月6, 2025 にアクセス、<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20241010-3041761/>
12. 実質的な賃金上昇になる生成 AI での業務効率化 現場がサボりやすい世界を作るための日本語 LLM の必要性 - ログミー, 3月6, 2025 にアクセス、<https://logmi.jp/main/technology/331304>
13. 「今こそ『日本語に特化した大規模言語モデル』が必要」国内最大級の生成 AI 開発に挑む SB Intuitions が描く青写真 | TECH+ (テックプラス) - マイナビニュース, 3月6, 2025 にアクセス、<https://news.mynavi.jp/techplus/kikaku/20240619-2964480/>
14. NEC 発「映像認識 AI×LLM」が業務効率化・DX 化推進の起爆剤に！ - 東証マネ部！, 3月6, 2025 にアクセス、<https://money-bu-jpx.com/news/article051542/>
15. 東北大学病院と NEC、医療特化 LLM を用いてカルテの情報から治験候補を抽出 | IT Leaders, 3月6, 2025 にアクセス、<https://it.impress.co.jp/articles/-/27558>
16. NEC と東北大学病院／治験患者登録の効率化に向けて LLM 活用の有効性を実証 (25.3.6) ,

- 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.newmed.co.jp/news/12421>
17. ChatGPT Enterprise とは？料金体系や Team プランとの違いを解説 ..., 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.ai-souken.com/article/chatgpt-enterprise-pricing>
18. ChatGPT Enterprise とは？料金目安やできること | EdgeHUB, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://highreso.jp/edgehub/chatgpt/enterprise.html>
19. ChatGPT Enterprise (エンタープライズ) とは？特徴や料金、導入 ..., 3月6, 2025 にアクセス、 <https://shift-ai.co.jp/blog/6854/>
20. ChatGPT Enterprise とは？機能や料金、利用方法 | ChatGPT とのセキュリティの違い - AUTORO, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://autoro.io/blogs/what-is-chatgpt-enterprise/>
21. LLM とは？生成 AI や ChatGPT との違い・導入の注意点をわかりやすく解説 - 大和総研, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.dir.co.jp/world/entry/solution/llm>
22. HCI 研究における大規模言語モデルの統合と倫理的課題 | AI-SCHOLAR, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://ai-scholar.tech/large-language-models/HCI-Ethics-LLM>
23. AI 活用における倫理問題とは？企業は何に留意すべきか - 日立ソリューションズ・クリエイト, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/column/technology/ai-ethical-issues.html>
24. オリンピックで再燃した AI の倫理問題を考える。最新の取り組み事例も紹介 - Aismiley, 3月6, 2025 にアクセス、 https://aismiley.co.jp/ai_news/what-is-the-ethical-issue-of-ai-that-has-become-more-important-due-to-the-evolution-of-technology/
25. LLM 幻覚とは何ですか？原因、倫理的懸念、予防 - Unite.AI, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.unite.ai/ja/what-are-llm-hallucinations-causes-ethical-concern-prevention/>
26. AI 規制と LLM 規制: 過去、現在、そして未来 - Exabeam, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.exabeam.com/ja/explainers/ai-cyber-security/ai-regulations-and-llm-regulations-past-present-and-future/>
27. LLM とセキュリティ - 総務省, 3月6, 2025 にアクセス、 https://www.soumu.go.jp/main_content/000948624.pdf
28. AI のさらなる活用に向けて「DNP グループ AI 倫理方針」を策定 | ニュース | DNP 大日本印刷, 3月6, 2025 にアクセス、 https://www.dnp.co.jp/news/detail/20171314_1587.html
29. AI 倫理のガイドライン：企業が直面するリスク管理の新たな基準とは - メンバーズ, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://knowledge.members.co.jp/column/20241122-ai-ethics>
30. DNP グループ AI 倫理方針 | DNP 大日本印刷, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.dnp.co.jp/corporate/dx/ai-ethicspolicy/index.html>
31. 2025 生成 AI / LLM で飛躍する AI 市場総調査 - 富士キメラ総研, 3月6, 2025 にアクセス、 <https://www.fcr.co.jp/report/243q07.htm>